

黒田地域



多田城落城の際、幼い官兵衛と母・於松(おまつ)は加古川を渡って逃げましたが、母は増水した川で溺死したという伝承があります。母の名にちなみ、この場所を「松ヶ瀬」といいます。

松ヶ瀬

円光寺跡【古絵図からの推定】
「莊嚴寺本黒田家略系図」では、黒田家初代・重光が父母のために創建したとの記載があります。黒田城落城とともに廃寺となったようですが、明確な場所はわかりません。江戸時代まではその所在地の伝承がありました。



「播磨古事」に記載された伝承によると、多田城(構居)に付随する邸宅跡と伝わっています。城山と黒田城下を流れる川に囲まれた田畑の周辺が「姥が懐」と記されており、「黒田官兵衛生誕地」の石碑が建てられています。

姥が懐



西脇市「官兵衛の里」推進協議会イメージキャラクター「へそのかんちゃん」

尾根伝いに不明瞭な土橋・土橋のようなものも残っていますが、城との関係は不明です。



中世・戦国時代に築かれた山城で、黒田氏9代の居城。現在稲荷神社がある比高約40mの半独立山の上に城があったと考えられますが、全体の城郭は不明で、帯曲輪・堅堀・堀底道とも見える不明確な地形が遺構として見られます。

黒田城址



黒田城の山下にあった城主居館と家臣団の屋敷群で、黒田城とは館と詰城の関係にあります。「播磨鑑」では、多田構居と記された平地城館です。加古川を望む段丘端に築かれ、平成7年に一部発掘調査が行われ、堀跡や建物跡が検出されました。

多田城址(多田構居)



白雉年間(650~654)に開基したと伝わる真言宗の古刹で紅葉の名所。江戸時代前期に建立された多宝塔は、兵庫県指定の文化財です。「莊嚴寺本黒田家略系図」を所蔵しており、持仏堂で複製を公開・展示しています。【公開時間】午前10時~午後4時

莊嚴寺

■ 作成・お問い合わせ
西脇市観光協会 TEL 0795-22-3111
ホームページ <http://www.nishiwaki-kanko.jp/>

新たな生誕地・発祥地説
そのゆかりの地をめぐる

官兵衛の里・西脇市

岡地域



天正19(1591)年改築の茅葺き拝殿は、三木合戦の際、羽柴秀吉が戦勝祈願成就のために臣下の黒田官兵衛に奉納させた奉納金により、改築されたと伝えられています。また、戦勝祈願に灯明田を寄進したとも伝えられています。

兵主神社



羽柴秀吉が三木城を攻めた時に、兵主神社への戦勝祈願とともに、大志野(現在の西脇市黒田庄町南部)に陣をとり、この石に腰かけて采配を行ったとの伝承があります。※極楽寺境内にあります。

太閤の腰掛石

比延地域



標高287mの比延山の山頂から尾根筋に広がる山城。築城年代は応永年間(1394~1427年)ごろと考えられ、播磨守護・赤松氏の子孫の本郷氏が居城し、後に比延氏を名乗るようになったといわれています。「莊嚴寺本黒田家系図」では、官兵衛の母(八代・重隆の妻)は、比延山城主・比延常範の娘となっています。

比延山城址